

2018年3月18日（日）

主 題：「ゴールに達するためには」  
一強くされなさい

テキスト：ヘブル人への手紙 12 章 1 2-1 7 節

**はじめに**

- ・ マラソンの場合、だれでも長い距離を走ると疲れるものです。出発する時は、誰も皆元気いっぱいです。しかし、レースが 20 km 地点、30 km 地点に達しますと、先頭集団とそうでない人々の間に距離が出てきます。先頭集団はどんどん進んで行くのですが、後続の人たちは次第に遅れて行き、もう先頭集団についていけなくなります。
- ・ 皆さん。私たちの信仰生活は、長距離競走にたとえることができます。この手紙の読者たちも、霊的命が少しずつ衰弱してきました。手は弱り、膝は震え始めるようになりまし。長距離ランナーどころか、病人のように痛々しく足を引きずって走っているような有様です。そうすると、走ることが辛くなってきます。著者は次のように勧めました。**12:12 ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。**
- ・ 皆さん！ そのような場合、どうすれば良いでしょうか。ここで注意したいことは、私たちの信仰生活はマラソンのように時間を競う場合とは違い、完走することが大切であることです。それには弱った手を伸ばし、震える膝をまっすぐにして立ち上がることで。しかし自力では、それが難しいことがあります。そのためには、もう一度力を与えてくださったお方の元へ行き、新しい力を得ることです。そうする時、私たちの信仰生活である長距離競争を走り通すことができます。
- ・ 今日、私たちはそのような信仰生活について考えてみたいと思います。 2点

**大切なポイント****1. 主によって癒される走者 12-13 節****12:12 ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。****12:13 また、あなたがたの足のためには、まっすぐな道を作りなさい。足なえの人も関節をはずすことのないため、いやむしろ、いやされるためです。**

- ・ ここでいう「弱った」、「衰えた」は、両方とも同じような意味です。脳梗塞などで、半身不随になってしまった手足のような状態のことです。ここから快復するのは、容易ではありません。少しでも早くリハビリを始めなければ、ますます快復が難しくなります。それは、信仰生活でも同じようなことが言えます。
- ・ 前回、親が正しい教育をしようと思えば、障害物をこどもの前から取り除くのではなく、むしろ適当な障害物を置いてやるべきだということを語りました。まだ覚えておられるでしょうか。それとこのみ言葉とは矛盾するのではと、思われることでしょう。しかし決して矛盾はしません。ここでは次のように語っています。**12:13 また、あなたがたの足のためには、まっすぐな道を作りなさい。足なえの人も関節をはずすことのないため、いやむしろ、いやされるためです。**

- ・ 適当な障害物は必要性ですが、それ以上の障害物はかえって邪魔になります。ここで言及している障害物は、邪魔になるもののことです。私たちの信仰生活という長距離競走は、お互いに競い合う者ではありません。みんなが走り通すこと（完走）が重要なのです。ですから、ある人々にとって邪魔になるものがあれば、それを取り除いてあげることが必要です。そうしないと、途中で競争を断念する人が出ないとは限りません。

### 1) 邪魔になるもの

- ・ それでは、何が競走において邪魔になるのでしょうか。異教的なものや世俗的なものです。それらは一見すると、魅力があるように見えるかもしれませんが。また生まれながらの利己的な性質もそうです。生れながらの利己的な性質は、自分にとって都合のいい考え方をします。それは神のみ心と反対です。
- ・ 神よりも自分を優先しますから、自分にとって都合の悪いことが起こると、それが神のみ心かどうか、確かめずに拒否してしまいます。そして他人を恨んだり、人からひどいことをされると、なかなかそれを赦すことができません。そういうものが、信仰生活で邪魔になります。それは自分に対してだけでなく、他の兄弟姉妹にとってもそうですから、そういう邪魔になるものを取り除くことが必要です。それは「皆が元気になって、ゴールに達するため」なのです。みんなが完走するためです。

### 2) 義の実

- ・ 信仰生活において、邪魔なものが取り除けられ、主に取り扱われるならば、義の実を結ぶようになりますが、その時に個人的な癒やしも経験します。悪に手を染めた手は、主にあって良いことをする手に変えられます。罪の誘惑に抵抗できなかった膝は、今度は罪に対して戦う強い膝に変えられるのです。間違った道を歩んだ足は、正しい道を歩む足になります。
- ・ マグダラのマリアを思い出してください（ヨハネ 8：1－11）  
マリアは汚れた女でした。姦淫の罪で石打ちの刑に合うほどの、大きな罪をおかしました。しかしキリストによって救われた時、彼女の人生は大きく変わりました。イエスは言われました。

**8:11 そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」** ヨハネ

そして彼女は、復活のイエスに最初に会うことが許されました。何という大きな変化でしょうか。

- ・ 罪の攻撃を受けたところは、癒される必要があります。主によって癒されて初めて、私たちは走る時にゴールに焦点を合わせて、強く生きることができるようです。いかがでしょうか。私たちは、信仰生活でどこに弱さを覚えるでしょうか。

## 2. 危険を避ける走者となる 14-17節

- ・ 神は私たちに他のクリスチャンとよい交わりを持つこと願っておられます。  
**12:14 すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることはできません。**

### 1) 平和を求めない

信仰生活において霊的力が発揮されず、疲れてしまう場合があります。そういう場合、人間関係がうまく行ってない場合があります。ですから、「全ての人と平和に過ごすことは大切」で、それを追い求めるように勧められています。

- この世の中には、あらゆる分野で競争原理が働いていますので、信仰生活を競走に例えると、お互いに競争して落ちこぼれにならないようにしなければならないという人がいます。そして人生の生存競走において、全ての人には敵に見えてくるでしょう。そういう生き方は、孤独でしかありません。そして疲れが出てきます。
- 信仰生活における原理は、競争ではなく「共生」であり、愛です。他の人をけ落とすではありません。互いに助け合って行くのです。ですから、全ての人と平和に過ごす必要があります。
- 平和というのは、単に争いが無い状態を言っているのではなく、心の通い合う内的な調和、一致、協力、つまり愛の交わりを意味していると思います。その愛とは、キリストが十字架によって示してくださった自己犠牲の愛です。そのような愛は、争いを避け、分裂を癒すこともできます。
- 愛こそ兄弟姉妹の平和の交わりの中心であるべきです。しかし、現実はどうでしょうか。肉の思いが台頭してくることはないでしょうか。肉の思いこそ、邪魔になるものです。私たちは邪魔になるものが現れたら、速やかに排除することが肝心です。
- 愛のみが、人の心と心 **エペソ人への手紙** を結びつけ、親しい交わりに入ることができるようにするものです。
  - 2:14 キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、
  - 2:15 ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、
  - 2:16 また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。
  - 2:18 私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができるのです。
- 私たちは平和を求めるものです。

## 2) 聖められることを求めなさい

12:14 すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることができません。

- 私たちは「聖なる者」となるように言われています。しかし、私たちに誘惑する悪の力は大きな存在です。ここで「聖い生活を追い求めない」とありますが、それは自分のことです。他の人とうまくやっ行ってこう、とすることは大切なことです。私たちは自分自身、いい加減な生活をし易いものです。他の人の不足が目に入ります。そうしている内に、自分の内にある罪や弱さをいい加減に見過ごしてしまいます。「聖められっことを求めなさい」とは、自分自身について厳しくあるべきと教えているのです。

12:15 そのためには、あなたがたはよく監督して、だれも神の恵みから落ちる者がいないように、また、苦い根が芽を出して悩ましたり、これによって多くの人が汚されたりすることのないように、

- この聖句を新共同訳聖書では、次のようになっています。

12:15 神の恵みから除かれることのないように、また、苦い根が現れてあなたがたを悩まし、それによって多くの人が汚れることのないように、気をつけなさい。

- ・聖められると、本当の意味で、周りの人々が必要としていることや、苦しんでいることに気づくようになってきます。周りの人々が弱り果てて、信仰生活という競争を走り通すことができるように、助けてあげるべきだと分かってきます。
- ・「苦い根が芽を出し」とは、神から離れた思いとか、神に対して反逆する思いのことです。それによって信仰生活から脱落していくことになるものです。このような神に背を向ける思いは、伝染しますから危険です。そう語る私（黒田）自身も、神に背を向けてしまう危険はたえずあります。ですから、気をつけねばなりません。神と固く結びついていないと、悪魔は私たちの心のすきをねらって、神に背を向ける思いを挿入してきます。いつも神との交わりに生きること、主イエスを仰ぎつづけることが肝心です。

・ **12:16 また、不品行の者や、一杯の食物と引き替えに自分のものであった長子の権利を売ったエサウのような俗悪な者がいないようにしなさい。**

また、性的な罪にのめり込むことがないように・・・注意しなさい。と勧められています。性的罪は、どんな人にも魅力的です。それが罪であることを隠して、ただ魅力的なものだけを示すことによって近づいてきます。その背後には悪魔がいることは明らかです。それに気をつけていないと、聖い生活から脱落してしまいます。

**12:14 すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることができません。**

### 3) エソウの関心

**12:16 また、不品行の者や、一杯の食物と引き替えに自分のものであった長子の権利を売ったエサウのような俗悪な者がいないようにしなさい。**

**12:17 あなたがたが知っているとおりに、彼は後になって祝福を相続したいと思ったが、退けられました。涙を流して求めても、彼には心を変えてもらう余地がありませんでした。**

- ・ここで旧約聖書のエソウを取り上げています。エソウはこの世のものにしか関心がありませんでした。信仰のことはまったく無関心でした。そうならないように、注意しなさい。彼は後になって後悔しましたが、もうその時には遅かったのです。この世のものにしか関心がない人とは、天国の存在を本当に信じていない人のことです。そういう人は、信仰のことに無関心であるのは当然です。
- ・では、私たちの関心はどこにあるのでしょうか。エソウのことを笑うことはできません。私たち人間がもつ本性は、みな信仰には無関心であることです。求めることは、肉の欲のことばかりです。
- ・神のみこころを求めるよりも、自分の頭で考えることを好む人です。祈ってはいますが、祈りは形式的なものとなり、祈りの中で大切な決断をしない人です。しかし、私たちの人生において、最も重大な決断は、じつは祈りの中で戦われるのです。仕事にしても、進学にしても、人に与える影響にしても、みな私たちがどのように祈るかによって決まってきます。
- ・そのことが分からない人は、せっかく、神の恵みによって救っていただいても、信仰生活を浪費してしまいます。ですから、この世においては何がしかの評価を得たとしても、天国においては何の報いもなしに、永遠の世界へ入ってしまいます。後になって後悔しても、もう遅いのです。私たちの信仰生活はいかがでしょうか。すべてが快調にいつているのでしょうか。主のみ言葉にもう一度耳を傾けようではありませんか。



- ・では、どのようにすれば、信仰生活のゴールに達することができるでしょうか。そして「聖なる者」となれるのでしょうか。私たちは頭では分かっている、すぐに苦々しい思いを持ってしまう。気をつけていないと、私たちは不道德な罪を犯してしまいます。牧師でさえも足をすくわれてしまうことがあります。一つの不道德な罪が、一生を台無しにしてしまうのです。
- ・人生のマラソンで、疲れているランナーには、自力で完走することは難しいことです。走るのに邪魔となる障害物を排除するには、どうすれば良いでしょうか。それは私たちに力を与え、先導してくださるお方の元に来て、共に歩むことです。

### ① イエスの十字架の御血

邪魔なものが入ったら、イエスに叫ぶこと

### ② 聖書のみことばの權威を信じること

先人たちのように、神のみことばを信頼すること

### ③ そして主に祈ること

祈りは全てにおいて決定します。ワンポイント・プレイヤーから始まり、常に主に祈ることです。

- ・ここに力を受け、ゴールに向かい完走できる秘訣があるのです。

- ・使徒の働き 2 章を思い浮かべてください。聖霊降臨後のペテロが登場します。ペテロの第一回目の伝道説教が記されています。使徒の働き 2 章

2:36 ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」

2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいのでしょうか。」と言った。

2:38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。

2:41 そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。

- ・ペテロの生涯を見ると、驚くべき主のわざを見ることができます。彼は数年前までは、ガリラヤ湖で漁をしていた漁師でした。しかしイエスが言われたように、彼は人間をとる漁師と変えられました。イエスの言われたとおりに、彼の人生は変わりました。
- ・いかがでしょうか。人生に勝利する力は、自分の内にあるものではありません。私たちの関心は、どこに向いているのでしょうか。生まれながらの肉の関心に目を向けるのではなく、私を尊い代価をもって買い取ってくださったお方に目を注ぐことです。そして、大切なことは与えられた信仰生活の旅路のゴールに向かって歩むものです。

## ま と め

主 題：「ゴールに達するためには？」  
一強くされなさい一

- ・私たちは長い信仰生活において、時として、弱さを覚えることがあります。しかしみことば次のように勧めています。

12:12 ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。

- ・それでは、新しい力を得て、ゴールに向かって走るには何が必要でしょうか。
  1. 邪魔になるものを捨てる
  2. イエスと共に歩むこと

\* God bless you !